

災害時の施設混雑やインフラ稼働状況を伝える仕組み
指定避難所および寺社等宗教施設あわせ約30万件
日本最大級の災害救援・防災マップ

未来共生**災害救援マップ**
災救マップ
ご説明資料

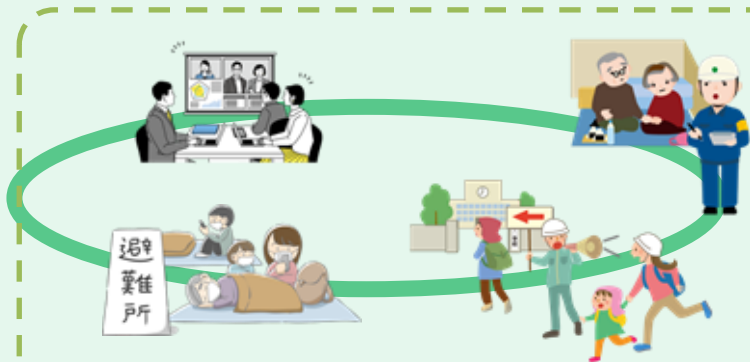
大阪大学
一般社団法人 地域情報共創センター
2026年10月1日

システム・プラットフォームとしてのコンセプト

基礎自治体にご活用いただくとともに、防災士をはじめとした防災意識の高い人や組織と連携を深めて、災害時の投稿要員のネットワークを広げ、災害時に投稿し、防災減災に寄与するとともに、市民に活用いただき、命を守る活動に貢献します。

災救マップ

組織運営＋SNSのハイブリッド・プラットフォーム



組織による管理プラットフォーム



市民投稿によるプラットフォーム

災救マップの概要

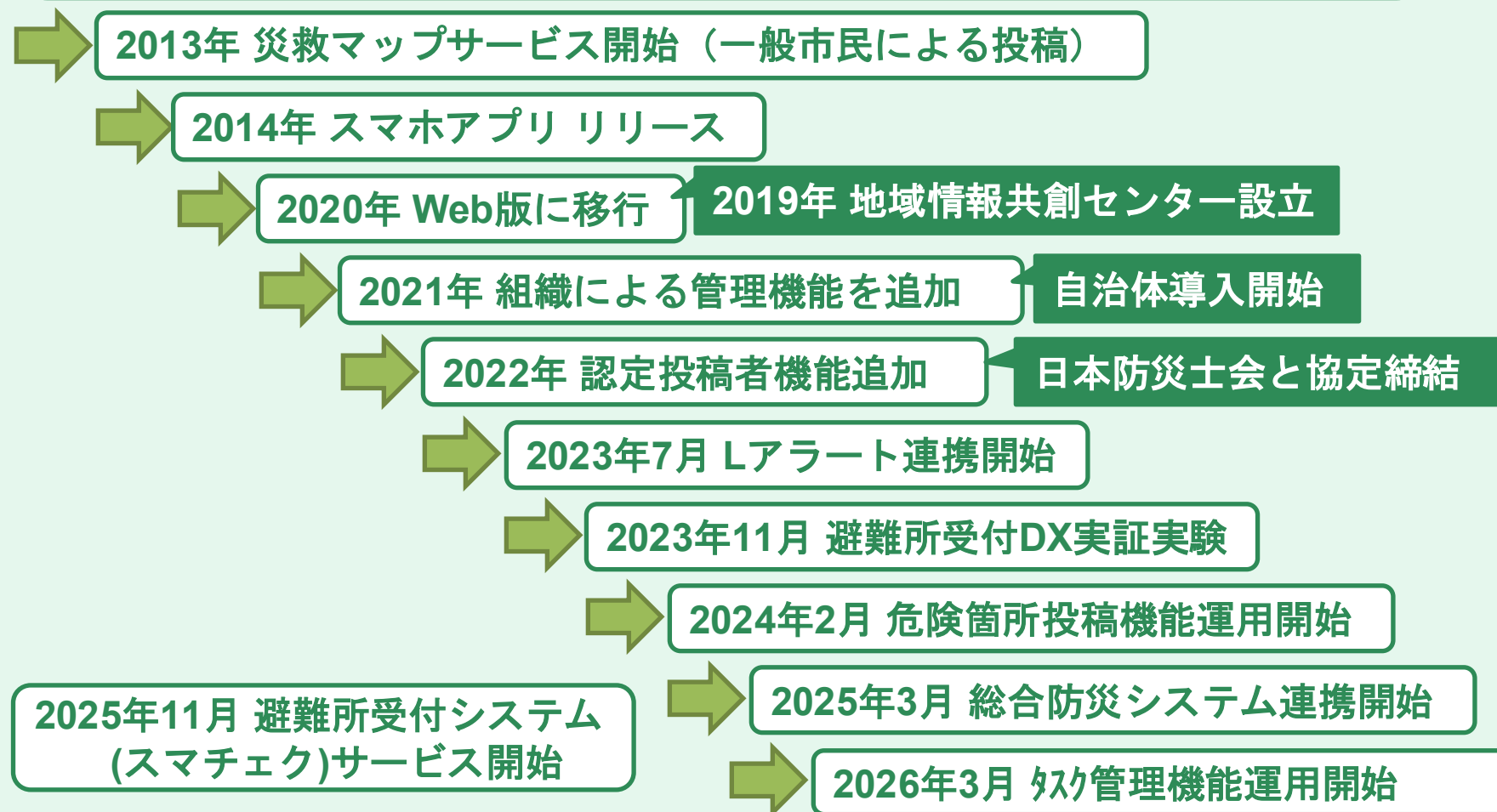
災救マップは、防災の取り組みを通して、自治体、自治会、学校、寺社・教会等の宗教施設、NPOなどが、平常時からつながり、コミュニティ作りに寄与し、災害時には救援活動を支援する情報プラットフォームです。

大阪大学の知的財産で、一般社団法人地域情報共創センターが社会実装を担っています。



災救マップの歩み

大阪大学では、災害時の避難状況や支援活動に関するさまざまな研究、フィールド調査を重ね、「地域資源とITによる減災・見守りシステムの構築」プロジェクトを発足、社会実装のための法人を設立し、社会実装を進めています。



災救マップ・Spectee Pro 災害対応連携協定を締結

大阪大学大学院人間科学研究科および社会ソリューションイニシアティブ（SSI）、株式会社Specteeおよび一般社団法人地域情報共創センター（RICCC）は、「未来共生災害救援マップとSpectee Proの災害対応連携に関する協定」を締結しました。

この4者連携により、本学の知的財産である「未来共生災害救援マップ」に、株式会社SpecteeのAIを活用したSNS災害情報解析技術を組み合わせることで、避難所情報に加えて土砂崩れや河川氾濫等の被害・危険情報も活用できる、より実効性の高い災害対応支援の実現を目指します。

出典：大阪大学ホームページ

[「未来共生災害救援マップ」とSpectee Proの災害対応連携に関する協定」を締結しました](#)

自治体防災業務における災救マップの位置づけ

避難所・避難者状況の情報入力、状況把握、管理業務を支援します。自治体の現場の声を取り入れ、使いやすい、役立つシステムとするために、機能を拡充し、そのサポート範囲を広げています。

災害発生時の業務

災害件名の登録、体制、
避難指示、お知らせ、
被害情報の収集・分析等

避難所・避難者状況収集
避難所運営・避難者支援

職員参集状況収集
所属への緊急通知
職員への動員指令・指示伝達

県・マスコミへの報告

罹災証明
生活再建支援

業務支援システム

総合防災管理システム（統合GIS・河川
情報センター・MCA無線等）
AI防災・リスクマネジメント等

- ・ 避難所情報共有・管理
- ・ 備蓄品管理
- ・ ハザードマップ
- ・ 危険箇所投稿・管理
- ・ 避難所受付・入退室状況管理
- ・ 総合防災システム連携
- ・ タスク管理

チャットツール・MCA無線等

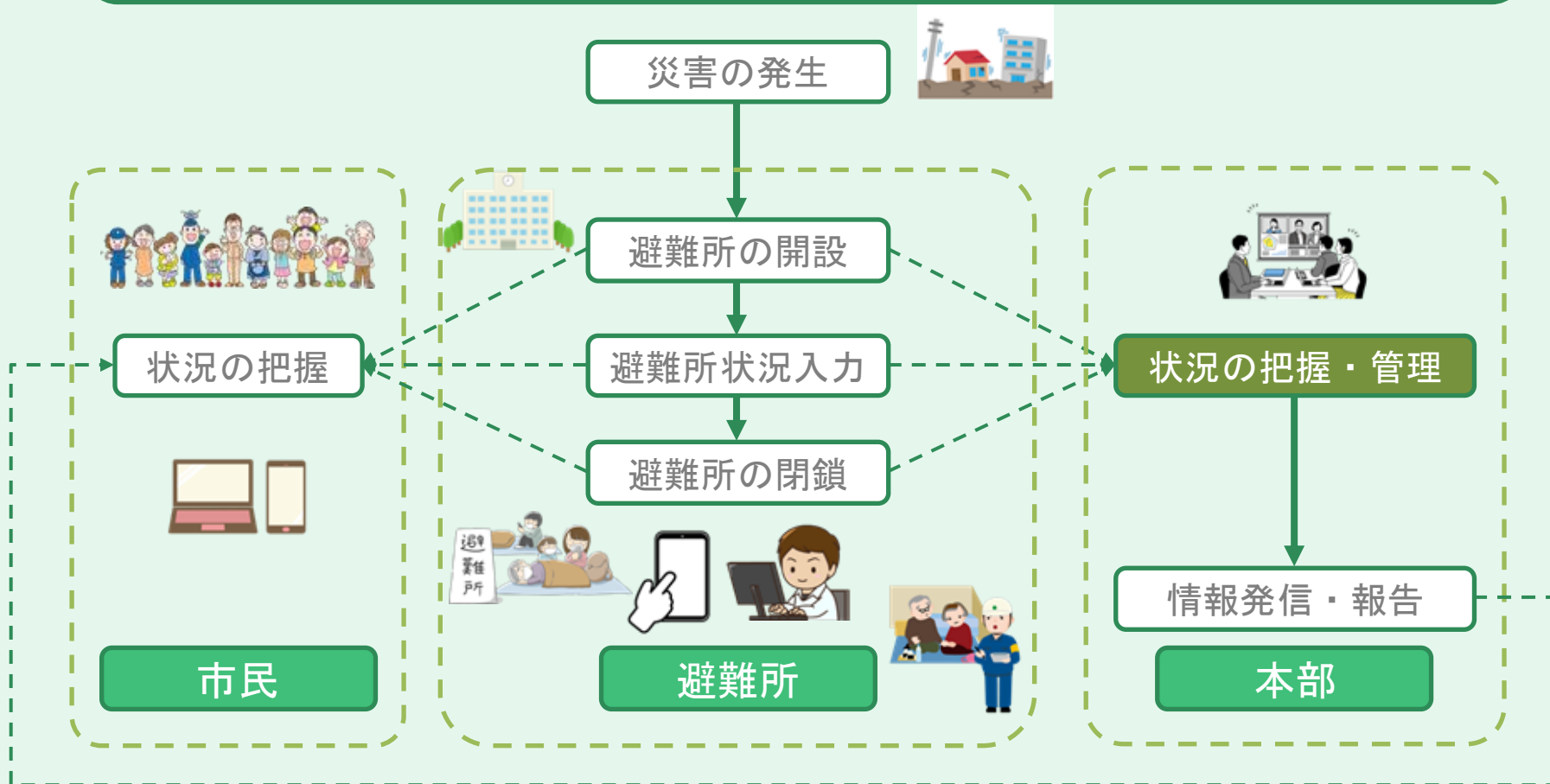
県防災システム（Lアラートへの連携）

罹災証明ソリューション
生活再建支援ソリューション

避難所情報共有・管理

災害対策本部・市民との情報共有

災救マップは、災害発生時に必要な開設に始まる避難所の状況報告、住民への情報提供、役所としての履歴管理、県や国への報告など、役所職員の皆様のご業務を支援するシステムとして、ご活用いただくことができます。



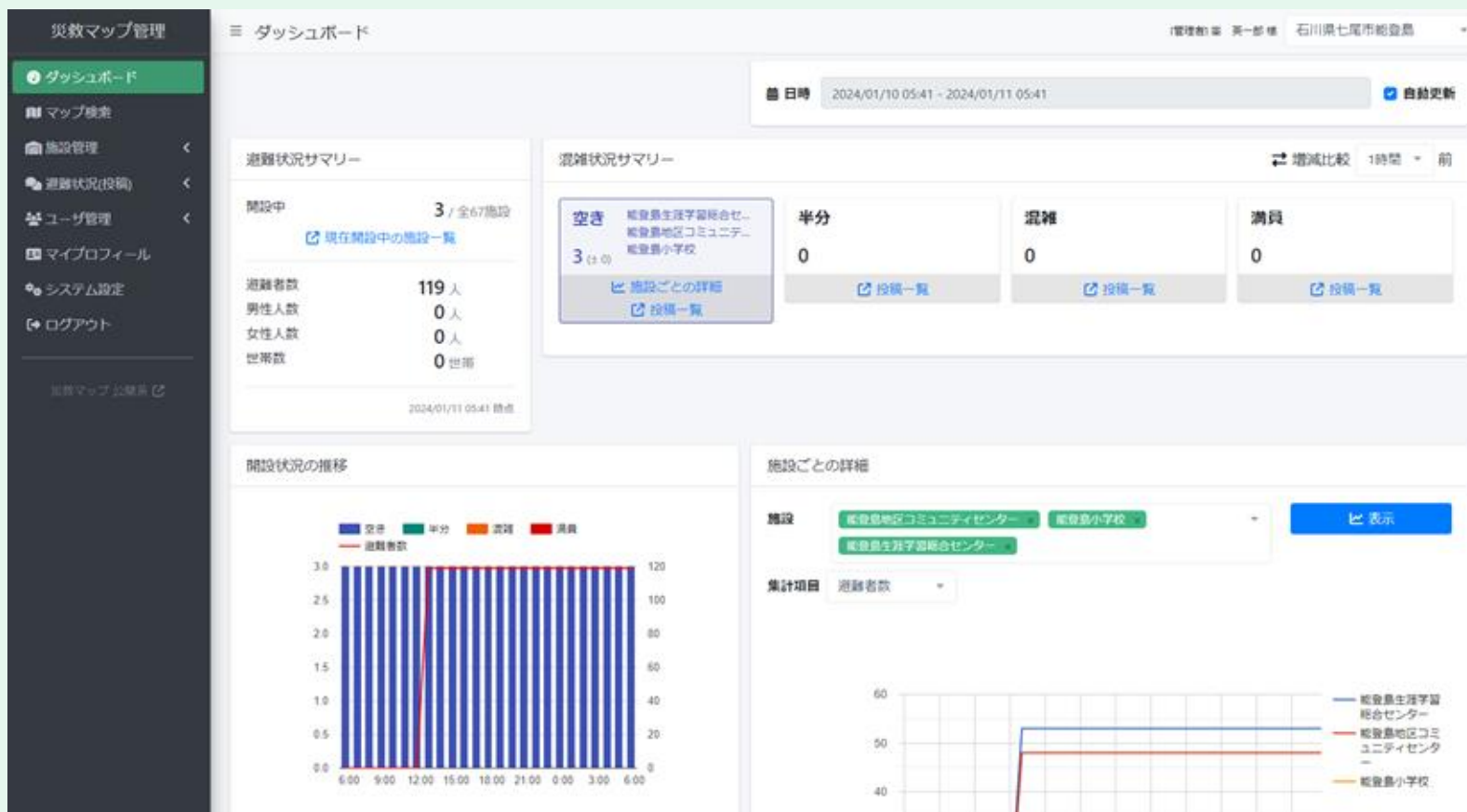
避難状況の投稿

ログインすることにより、施設詳細画面から、その施設の避難状況を投稿することができます。



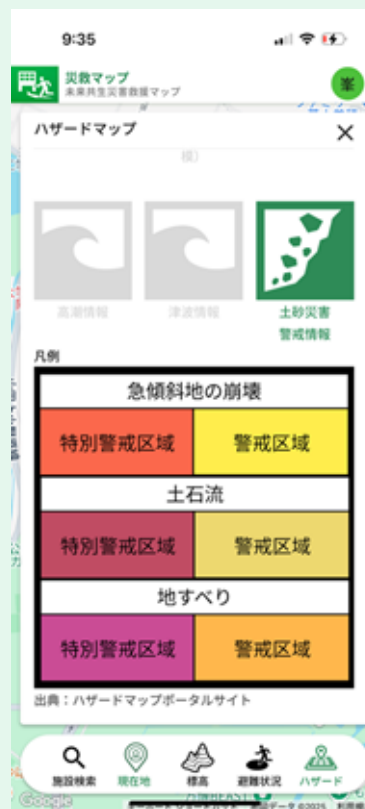
ダッシュボード

ダッシュボードでは、組織内の避難所の混雑状況を把握、グラフによる避難者数の時系列推移や、避難所毎時間ごとの避難者数の推移のリストを表示、CSV出力することができます。



ハザードマップ

危険箇所にアイコンがセットされ、タップすると詳細画面が表示されます。



津波警報・地震速報・気象警報・避難情報表示

Lアラートから連携し、避難情報を表示します。発令中表示をタップすると詳細の情報を確認することができます。



危険箇所の投稿

マップ上の任意の場所を長押し、メニューを選択すると表示されるピンの位置を、マップを動かすことによって、危険箇所にセットし、次へをタップすると危険箇所を投稿することができます。



危険箇所の投稿

写真を撮影し、投稿することができます。画像は、一般に公開するか、自治体内だけに留めて投稿するかを選択することができます。画像の投稿については、避難所の状況の投稿の際にも、同様の投稿が可能です。今年度、投稿自体を役所内に限定する非公開機能を提供予定です。



タスク管理機能

避難所及び対策本部から、タスクを登録し、相互にコミュニケーションをとりながら、タスクを進行させるとともに、進捗状況（未着手→対応中→対応済→クローズ）を共有することができます。

タスク登録

← たずかんねん4号機（独立電源通…

現在地点からの距離 9.9km

現在の状況

開設状況 ● 開設
避難状況 ○ 空き

概要 避難状況 タスク

+ タスク作成

題名
仮設トイレの手配

概要
トイレが使えないため、仮設トイレの手配をお願いします。

優先度
優先度高

連絡先
090-1234-5678

登録

進捗管理

タスク一覧 [管理者] 基 英一部 種 GV防災

フィルタ

優先度
すべて

施設名
施設名

起票者
起票者名

担当者
担当者名

フリーワード
キーワード

アーカイブを表示

適用

未着手

#7 優先度高 0

給水車の手配
水道が使えません。給水...
GV防災
起票者 基 英一部
担当者 基 英一部
GV一時避難所

対応中

#8 優先度高 1

発熱患者発生のため医療班を手配ください。
発熱患者が2名発生しま...
GV防災
起票者 基 英一部
担当者 基 英一部
GV一時避難所

#9 優先度高 1

発熱患者2名発生
発熱患者2名発生医療班...
GV防災
起票者 基 英一部
担当者 基 英一部
GV一時避難所

#10 優先度高 1

おむつが不足
おむつが足りません。補...
GV防災
起票者 基 英一部
担当者 基 英一部
GV一時避難所

対応済み

#6 優先度高 2

仮設トイレの手配
トイレが使えません。仮...
GV防災
起票者 基 英一部
担当者 基 英一部
GV一時避難所

クローズ

#1 優先度高 2

医療班の手配
発熱者2名の対応に医療...
GV防災
起票者 基 英一部
担当者 基 英一部
GV一時避難所

CSVダウンロード

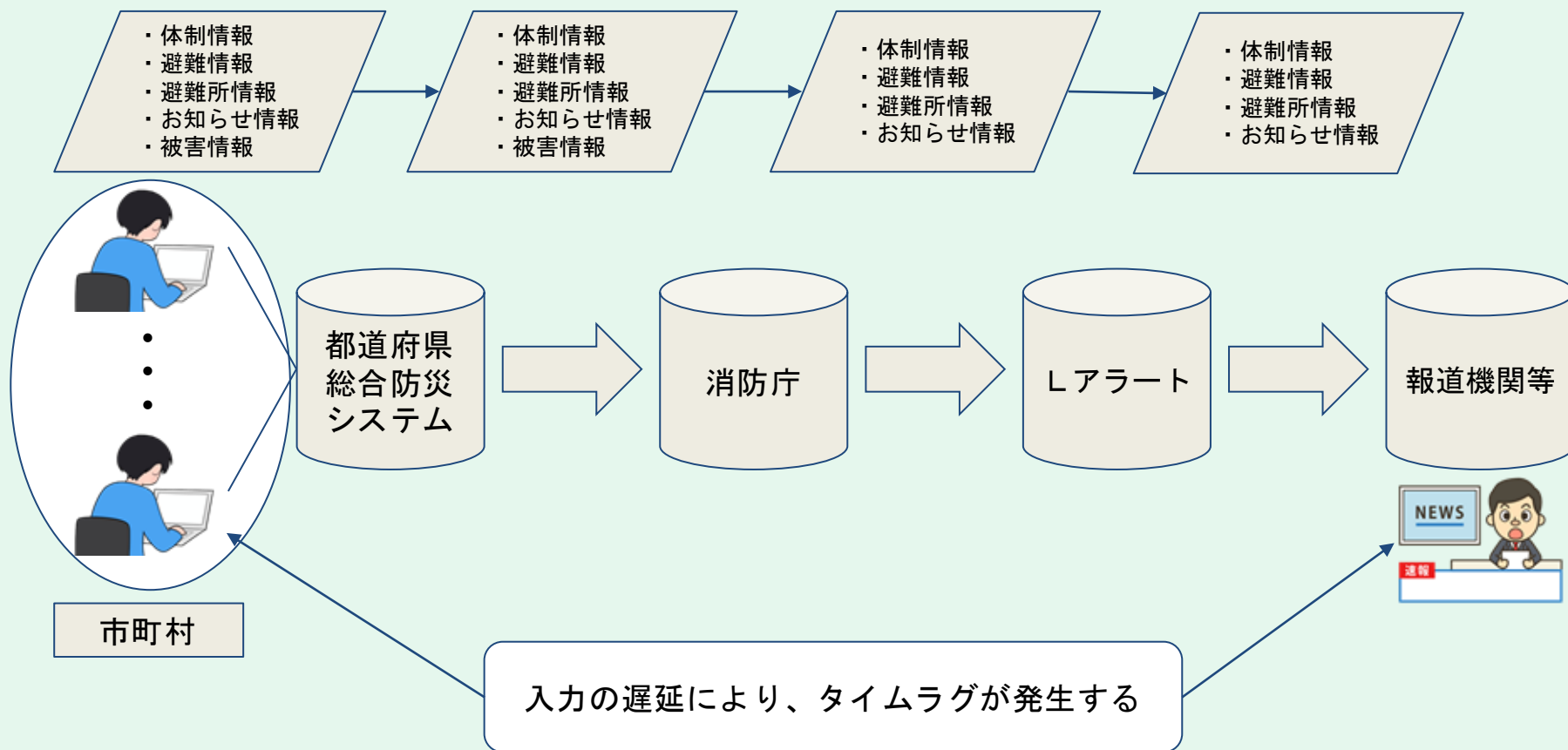
避難所

対策本部

総合防災システム連携

都道府県総合防災システムのデータフローにおける課題

都道府県下の基礎自治体の入力情報が消防庁を経由してLアラートに連携される



都道府県と基礎自治体における二重入力の状況

市町村で稼働しているシステムの種類と生じている市町村のシステムと県総合防災システムへの二重入力の状況

市町村からの入力情報	市町村の種類（市町村で稼働しているシステムの種類）		
	総合防災システム	避難所システム	システムなし
避難所情報	○	○	×
被害情報		×	
体制情報			
避難情報			
お知らせ情報			

- ：システム化（データ化）されており二重入力が生じている情報
- ×：システム化（データ化）されておらず、二重入力が生じていない情報
- △：システム化（データ化）を進めており、今後二重入力が生じる可能性がある情報

※概念的な整理。想定を含みます。

システム化（データ化）されていない市町村の業務イメージ

MCA無線や携帯電話、LINEなどにより、対策本部が、現場からの情報連絡を受け取り、ホワイトボード等に記載し、県総合防災システムへ入力している。

役所



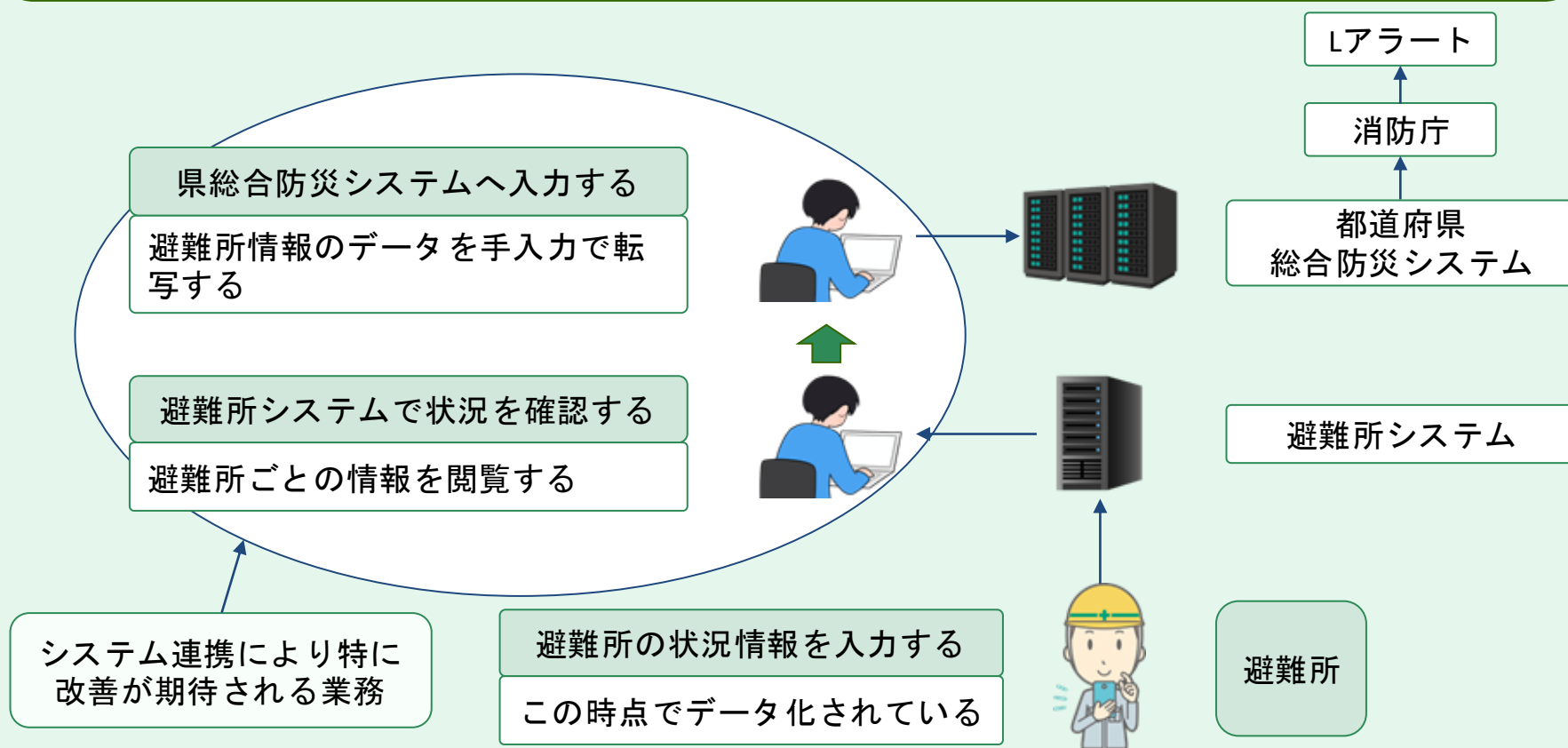
現場



災救マップの導入で問題解決

システム化（データ化）されている市町村の業務イメージ

市町村としては、すでに自所のシステム入力し、データ化されている情報を、都道府県総合防災システムへ、二重に入力しなければならない。
業務的な負担を強いることになり、情報発生時から入力されるまでの間に、タイムラグが生じる原因にもなっている。



市町村における防災情報の発生・入力箇所

市町村における防災情報には、対策本部で発生し入力する情報と、避難者の状況や被害状況に応じて現場で発生し、現場で入力される情報の2種類がある

情報発生・入力箇所	情報の種類	情報の発生タイミングと頻度
-----------	-------	---------------

役所

対策本部



体制情報

対策本部発足時と解散時

避難情報

避難情報発令時と解除時

お知らせ情報

上項のようなイベントの発生都度

避難所情報①

マスターデータ：初期設定時

二重入力をなくしデータの精度向上や効率化への期待がある

現場

避難所



避難所情報②

避難所の状況情報
(避難者数・混雑状況等) :
避難所の状況変化の都度

被害現場



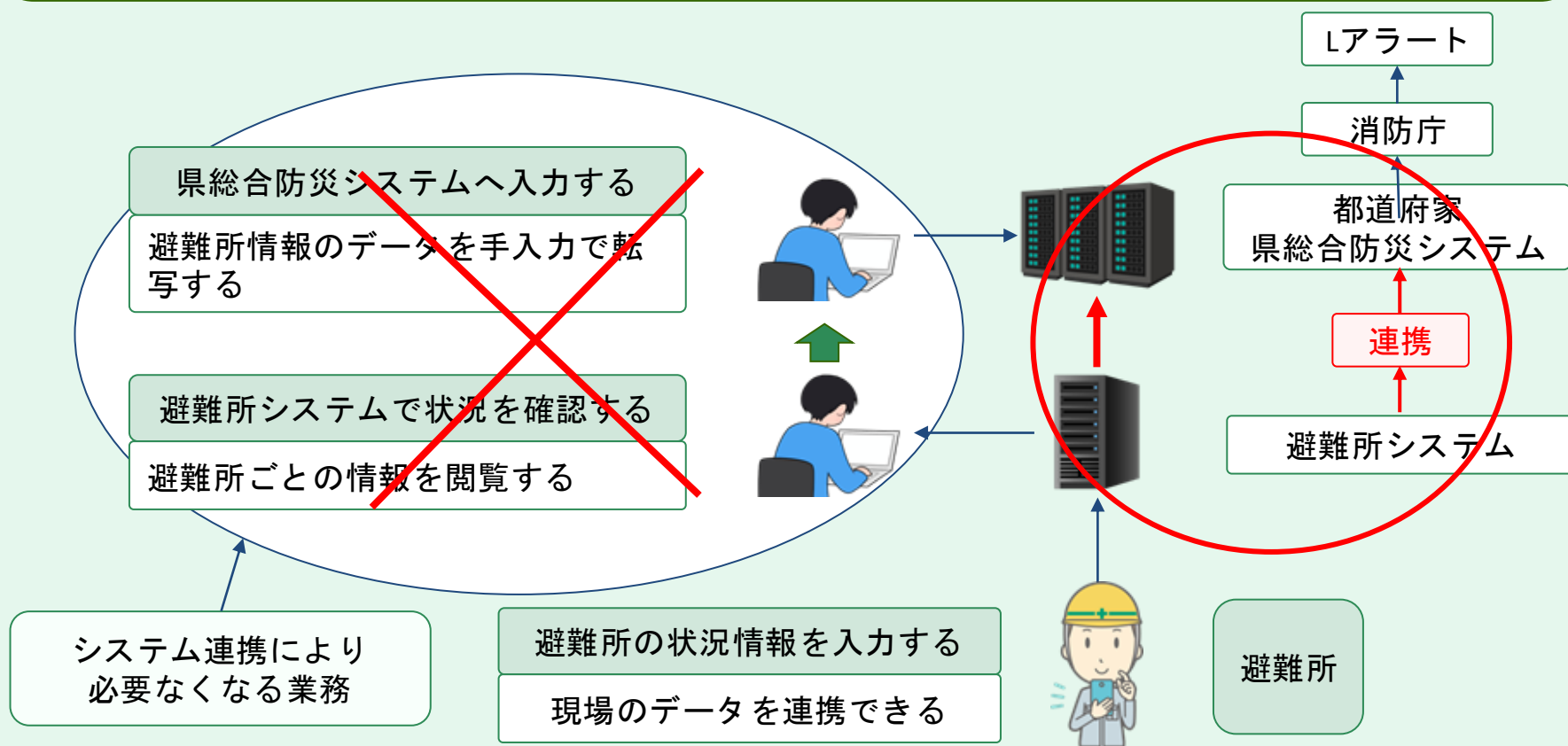
被害情報

被害現場の被害情報 :
被害発生都度

情報発生タイミング・入力者・発生頻度の観点から連携へ大きな期待がある

システム連携後の業務イメージ

システム連携により二重入力が解消し、情報発生時からのタイムラグがなくなり、業務的な負担が軽減される。また、転記ミスもなくなるため、正確な情報が、迅速かつ効率的に、情報が伝達され、DX化が進む。



避難所受付システム

2022年 鹿屋市高須町での避難訓練

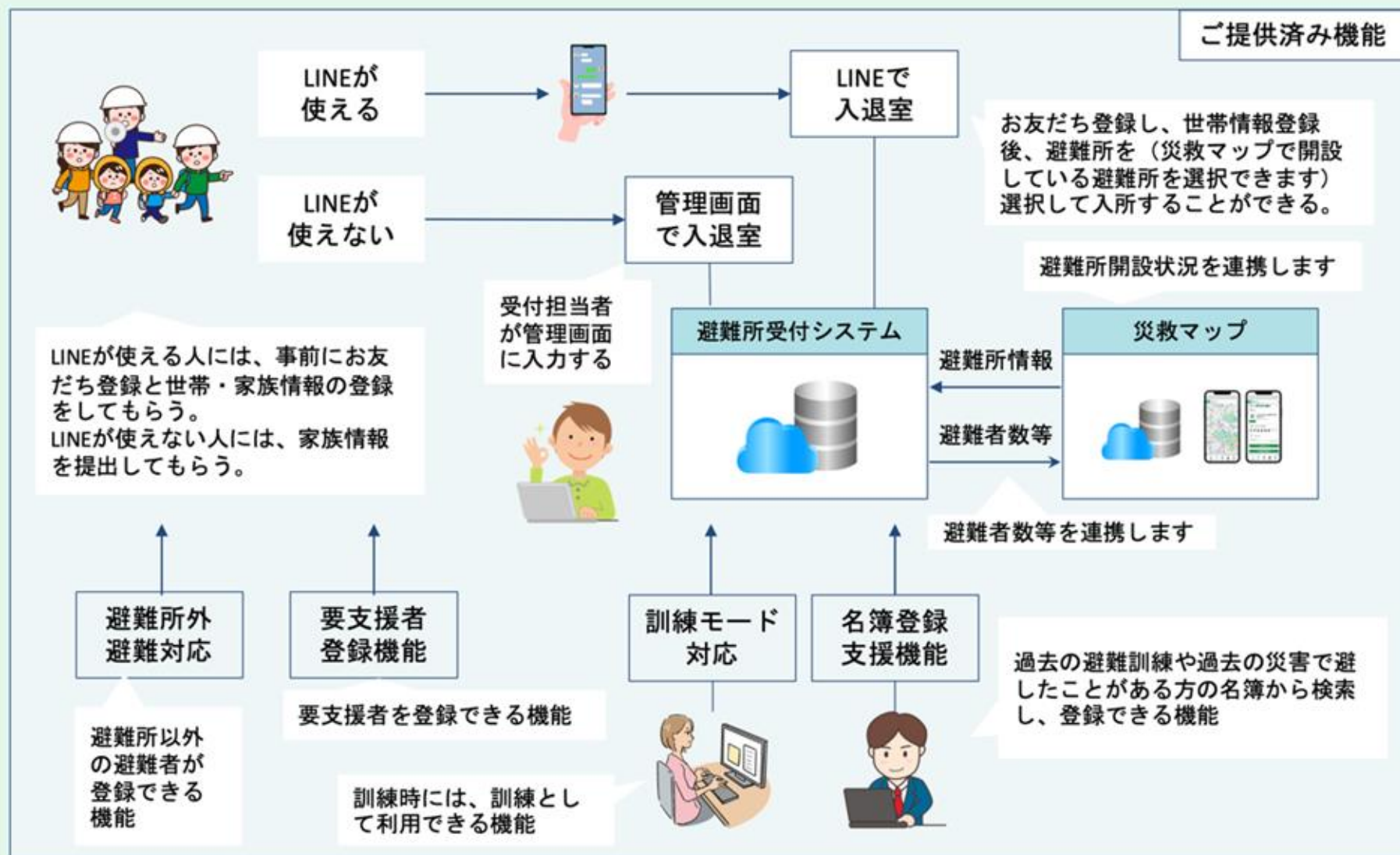
入所に際して、紙の台帳（名簿）で受付し、長蛇の列が発生しました。



LINEを使った避難所受付DXシステムで、避難所に入所する際に発生していた行列を解消しました。



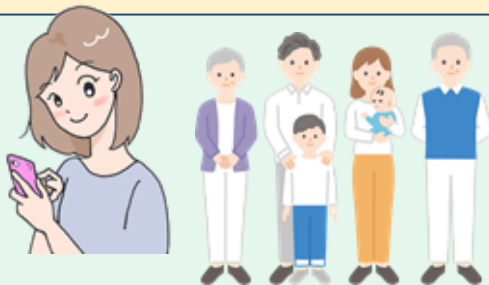
避難所受付DX構想概要



世帯単位に入力してもらおう

世帯単位で入力してもらおう。操作が分からない人には、入力をサポートする。スマホ・LINEの無い人、操作に時間がかかりそうな人は、職員が受付システムに入力する。

ご自身のスマホで入力



操作のわからない人はサポート



スマホ・LINEのない人・操作に時間がかかる人は入力を代行



名簿に必要な情報を入力完了後に受付する

入力が完了すると、LINE上で、入所受付するようナビゲートする。
受付では入力完了済みの名簿が確認できる。
受付で代表者が氏名を伝える。
該当する世帯の入所を受け付けする。
入所時に名簿が作成できる。



入所中だけでなく退所後にも連絡することができる

